

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度2月号

○ 概要

- (1) 令和7年度2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,072億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+6.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,755円（伸び率+2.7%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,950億円（伸び率+6.0%）、薬剤料が5,108億円（伸び率+7.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が998億円（伸び率▲0.2%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,325円（伸び率+1.3%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.84種類（伸び率+0.0%）、27.2日（伸び率▲0.2%）、69円（伸び率+1.5%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,860億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+202億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の709億円（伸び幅+13億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+48億円（総額541億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,860億円 (+202億円)	39 その他の代謝性 医薬品(709億円)	21 循環器官用薬 (560億円)	42 腫瘍用薬 (541億円)
0歳以上 5歳未満	18.2億円 (+0.8億円)	44 アレルギー用薬 (4.3億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2億円)	62 化学療法剤 (2.9億円)
5歳以上 15歳未満	130.4億円 (+32.2億円)	44 アレルギー用薬 (34.9億円)	62 化学療法剤 (30.8億円)	11 中枢神経系用薬 (27.7億円)
15歳以上 65歳未満	1,506億円 (+108億円)	39 その他の代謝性 医薬品(270億円)	11 中枢神経系用薬 (269億円)	42 腫瘍用薬 (183億円)
65歳以上 75歳未満	727億円 (▲4億円)	39 その他の代謝性 医薬品(162億円)	42 腫瘍用薬 (137億円)	21 循環器官用薬 (120億円)
75歳以上	1,479億円 (+65億円)	21 循環器官用薬 (271億円)	39 その他の代謝性 医薬品(268億円)	42 腫瘍用薬 (217億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,755円（伸び率+2.7%）で、最も高かったのは北海道（11,714円（伸び率+2.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,577円（伸び率+3.5%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+7.1%）、最も低かったのは福島県（伸び率+0.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.7 %	+1.1 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	75.4 %	▲1.5 %
後発品調剤率	82.7 %	▲1.0 %

注1) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

注2) [後発医薬品の薬剤料] / ([後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料] + [後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.2 %	+20.0 % (5歳以上 10歳未満)	▲8.8 % (80歳以上 85歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	75.4 %	85.0 % (100歳以上)	73.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.7 %	94.5 % (0歳以上 5歳未満)	90.5 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	819 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (235 億円)	11 中枢神経系用薬 (139 億円)	44 アレルギー用薬 (85 億円)
0歳以上 5歳未満	7.7 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	62 化学療法剤 (1.3 億円)
5歳以上 15歳未満	25.0 億円 (+2.7 億円)	44 アレルギー用薬 (13.6 億円)	62 化学療法剤 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)
15歳以上 65歳未満	299 億円 (+1 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (48 億円)
65歳以上 75歳未満	155 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (56 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19 億円)
75歳以上	333 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (43 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,377 円	1,729 円(北海道)	1,169 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.2%	▲0.1 % (青森県)	▲6.9 % (富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.7 %	94.5 % (沖縄県)	89.5 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	75.4 %	79.2 % (島根県)	69.1 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	82.7 %	85.4 % (熊本県)	80.2 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。